

こんにちは。ゆいで医務を担当しております橘 政通です。

2014年9月20日(土曜日)にゆい体育館におきまして、北海道医療大学(以下医療大) 歯科衛生士長 梶 美奈子様をお招きして、「口腔ケアについての正しい理解とその方法」という事で、講義・実習を行いましたので、その模様をご報告致します。

ゆいへは、医療大小児歯科の医師をはじめとしました歯科スタッフが、日頃より定期的に往診していただき、障がいのある方に無理せずご配慮頂きながら、検診や治療をおこなってくださっております。しかし利用者様の特性上、ユニット等居住場所での業務展開が難しい事もあり、現場スタッフと接する機会も少ない現状がありました。

そのような事から、今回現場職員を対象としました講義及び実習という研修会を通じて、より利用者様への口腔ケアの質が向上していく事を目的とし、梶様にご賛同いただき、開催の運びとなりました。



講師 梶 美奈子先生

前半は講義でしたが、歯の形成や虫歯が形成される条件、唾液の作用等基本的な知識はもとより、口腔乾燥や歯肉の腫脹が引き起こされる内服の種類について等、私たちが普段接しております利用者様の特徴も踏まえてお話ししていただき、とても興味をひかれる内容でした。また事前に職員より幾つかの質問事項をお伝えしていたこともあり、反芻や脱感作といった現場でのタイムリーな症状や介助法についてもお話しいただき、参加者の興味を引く内容になっていたと思います。

後半は実習でしたが、染め出し液を参加者が自ら使用し、自身の歯垢のチェックをおこなったり、職員が利用者様になりきり、よりリアルな状況を設定して、ブラッシングの実演・指導を実施したりして頂きました。特に印象に残ったこととしては、対象者に口を開いてもらう手技（Kポイント刺激）、介助者の姿勢や利用者様の体位の工夫等でした。これらはすぐにでも援助に活用できる内容であったと思います。

昨今予防的な健康管理が重要視されてきていますが、日常的に実施している代表的な事由が口腔ケアだと思います。普段のケアを充実させることで、虫歯をはじめとした口腔疾患のリスクを軽減できるだけでなく、痛みや受診そのものの負担、治療にかかる時間的な負担、食生活のクオリティーの低下等の軽減・防止にも繋がり、結果利用者様の生活の質の保持・向上に繋がるものと考えております。

今後も機会がありましたら、このような研修会を開催できればと考えております。

講師の梶様始め、お忙しい中ご参加いただきました職員の皆様、本当にありがとうございました。



実習風景